

# 富山経協



クロガネモチの実 (解説・18ページ)

## CONTENTS

- 2 東部地区会員懇談会 (報告)
- 3 東部地区会員懇談会 講演要旨  
「金融政策運営と地域経済への効果」
- 4 TOP INTERVIEW  
    燐化学工業 大塚肇社長
- 6 事業活動報告
- 7 委員会活動
- 10 講座・セミナー
- 10 参加者NOTES
- 16 見学会
- 17 新会員の紹介・会員の動き
- 19 景況指標
- 20 おしらせ・事業予定

# 東部地区会員懇談会



11月11日(金)、ホテルグランミラージュにおいて102名が参加して、東部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会では、日本銀行富山事務所長の武田英俊氏を招き、「金融政策運営と地域経済への効果」と題して講演を行った。(講演要旨は3頁掲載)

第2部の懇親会では、米屋副会長が「今年を振り返るとリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで富山県出身選手が2個の金メダルと1個の銀メダルを獲得するなどの良い話題があった。来年はアメリカ大統領選の影響もあり、どのような年となるのか分からない面も大きいですが、皆で協力し明るい年としていきたい」と開会挨拶をし、来賓の寺林副知事より「新幹線の開業と地方創生という風を活かさないと手はなく、行政としても全身全霊取り組んでいく。皆様方の力強



米屋副会長



寺林副知事



金岡会長



井上副会長

いリーダーシップのもとに富山県の経済産業が一層発展していくことを期待している」と挨拶があった。

続いて、金岡会長が「今回のアメリカ大統領選を通じて、サイレントマジョリティの影響力の大きさを感じている。我々も声を挙げない大多数の人の考えに気を配り企業活動を続けていかななくてはならない」とし、乾杯した。和やかな歓談ののち、井上副会長が「経営層、担当者それぞれの層で人事・労務をはじめ様々な情報交換ができることが経営者協会の良い点だと考えている。今後益々会員間の交流を深めていくことを互いにお約束したい」と中締めし、散会した。

## 会長・副会長会議

11月11日(金)、ホテルグランミラージュにおいて会長・副会長会議を開催した。

①2017年「新春互礼会」は1月4日(水)に当協会が幹事となり、当協会、富山県商工会議所連合会、富山県商工会連合会、富山経済同友会、富山県中小企業団体中央会の県内経済5団体で、ANAクラウンプラザホテルにおいて開催することが報告された。

②2017年のスケジュールは、3月3日(金)富山電気ビルで幹事会、5月22日(月)にANAクラウンプラザホテルで第72回定時総会、7月7日(金)に西部地区会員懇談会、7月14日(金)に長野県で長野・福井・石川・富山の4県経営者協会役員協議会、9月8日(金)理事会・富山地区会員懇談会、11月10日(金)に東部地区会員懇談会を開催することが確認された。

### 秋の叙勲

#### 旭日中綬章

川田工業株式会社 相談役  
元富山県経営者協会会長

川田 忠樹 氏

#### 藍綬褒章

株式会社能作 代表取締役社長

能作 克治 氏

## 「金融政策運営と 地域経済への効果」

日本銀行  
富山事務所長 武田 英俊 氏



### 1. 金融政策とは

金融政策とは、「経済・物価を安定的な状態とするために実質金利を自然利子率の上方または下方へ動かすこと」であり、日本銀行が責任を負っています。具体的な金融政策の決定は、政策委員会という最高意思決定機関が合議制で決定します。

### 2. 90年代以降の日本経済と金融政策の対応

日本経済はバブルの崩壊以降、デフレが常態化し、経済成長も停滞しています。

日本の潜在成長率は足元では0.2～0.3%程度です。潜在成長率低下の主な要因は、①人口減少に伴う労働力の減少、②生産性の低下の2つです。

生産年齢人口は既に大きく減り始め、労働者は減っています。生産性の低下原因については諸説ありますが、1つはサービス経済化が進み、相対的に生産性の高い製造業の割合が低下したこと、もう1つは、過去に生産性が高かったエレクトロニクス産業の業況悪化が考えられます。

こうした状況下、日本銀行が始めた政策が2001年からの量的緩和です。さらに2010年後半より包括緩和を実施し、その後2013年4月から現行の黒田総裁の体制となり、緩和を大幅に拡大する量的・質的金融緩和を導入、今年2月からマイナス金利を付加しました。これらの政策は重層的に分厚く重ねて行うことで強力な緩和効果が得られる形にしています。

### 3. 量的・質的金融緩和(QQE)とマイナス金利政策

QQEのメカニズムは、実質金利を下げるというフィッシャー方程式(実質金利=名目金利-期待インフレ率)に沿ったものです。国債金利と価格は逆相関しますので、国債を大量に買い入れ値段を上げれば金利が下がります。一方、2%の物価安定目標を達成するとコミットし、金融緩和を行うことで予想物価上昇率を上げていくと、実質金利は下がります。それによって貸出や資本市場を刺激し、経済の好転、物価上昇率の上昇を図るということです。

量の部分は、主に長期国債の買い入れを行っています。一方で長期国債のリスクプレミアムを押下げるとともに、株式や不動産等のリスクプレミアム圧縮を図ることが質の部分です。マイナス金利政策とは、今までやっていたQQEにプラスアルファでマイナス金利を付加したものです。効果はすぐに発現しており、国債利回りが速やかに低下し、短観で見た企業金融の状況も非常に緩和的となっています。QQEとマイナス金利政策が経済にもたらした効果については、株価を例にとるとQQE導入前の倍近い水準となっています。

### 4. QQEの総括的検証と長期金利操作付きQQE

3年半にわたり大規模な金融緩和を行い、相応の経済効果を上げて参りましたが、一方で目標とした2%の物価上昇は達成できていません。2%の物価安定目標をで

きるだけ早期に達成するために日本銀行は総括的な検証を行い、結果を9月21日に公表しました。

予想物価上昇率は最初の1年半は順調に上昇しましたが、原油価格の急落や消費税増税の影響で横ばいとなり、中国ショックが来て伸びが鈍化しました。マイナス金利政策導入で改善は見られましたが、落ち込みをカバーすることはできませんでした。

「総括的な検証」を踏まえ日本銀行は「長短金利操作付きQQE」を導入しました。ポイントは2つあり、1つは「イールドカーブコントロール」、政策の中間目標に長短双方の金利水準を採用しました。

もう1つのポイントは「オーバーシュート型コミットメント」です。物価上昇の実績値が安定的に2%を超えてもう下がらないことが確認されるまで政策を続けるという強い意志を示しています。

### 5. 北陸経済の状況

金融政策の効果は、日本全体の中で北陸にも現れています。北陸経済の景況感は、日本銀行の分析では全国9地域中2番目の高さです。最新の日銀短観を見ても、先行きは少し下がりますが良い業況感が続いています。収益状況も全国9地域の中で2番目、有効求人倍率は1番ですが、人口減少の中で労働供給が少ない面もあり手放しでは喜べません。

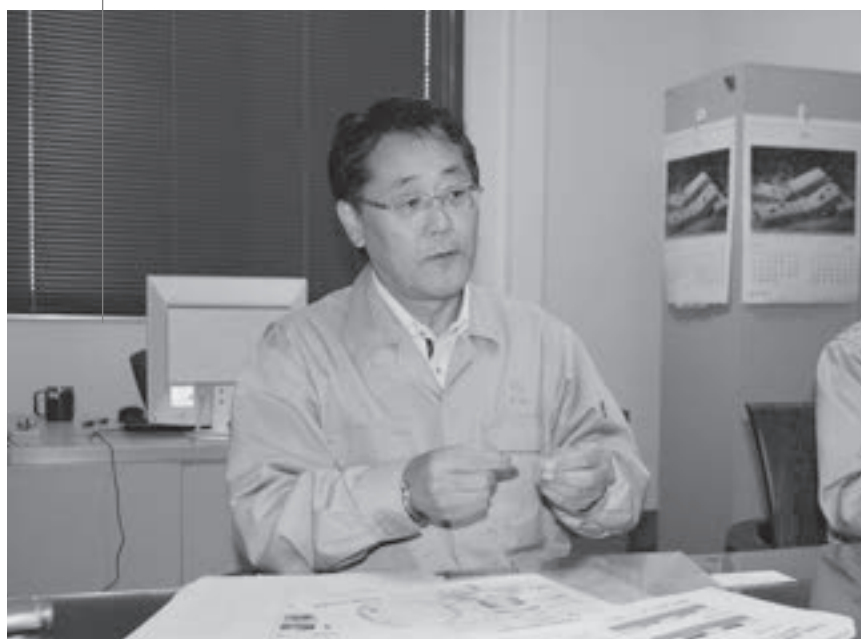
所得面では雇用者の数と賃金の両方が増加しています。

消費動向についても全体として悪くはないという状況です。地価も前年比同様程度の水準まで上がり、金融緩和の効果が出てきています。貸出金利は下がり、北陸の企業へ銀行の貸出残高の伸び率は全国を超えました。企業の前向きな投資を反映した資金需要が継続的に出てくることを期待します。

## 身近なリンの新用途開発 風通しの良い職場で 人材育成

磷化学工業株式会社  
代表取締役社長

大塚 肇 氏



**今年、設立90周年の節目を迎えられました。**

4月に全従業員と軽井沢で90周年を祝いました。長い社史の中には幾多の困難がありました。

当社は1926年に、富山市の現在の稲荷公園の場所で、マッチに使うリンを製造する金山電化工業所として創業しました。1943年に磷化学工業(株)に社名変更し、一貫してリン製品を製造しています。

戦時中は、戦闘機の燃料を作る

時に触媒となるリンを作っていましたが、空襲でプラントが全焼。戦後に復興しましたが、周辺の宅地化が進み、環境意識の高まりから近隣住民からの要請もあり、現在地に移転しました。その時の過大な設備投資や為替の影響で1980年に経営破綻し、会社更生法の下で再建を成し遂げてきました。現在は総合化学メーカーの東ソーグループの一員となっています。

現在は主に、黄リンを原料とす

るリン化合物を製造しています。**リン製品はどのように使われているのでしょうか。**

リンはとても身近なところで使われています。パン作りのベーキングパウダーの働き促進や、ハム・ソーセージをみずみずしく保つ役割、飲料や缶詰の変色防止や風味やコクを出す働きなどがあり、色々な食品に添加されています。

他にもプラスチックの難燃剤、半導体のエッチング剤、医薬品や化粧品など、多様な用途に使われています。エッチング剤には高純度のリン酸を使いますが、パソコンやスマートフォンの小型化に伴い半導体も微細になり、求められる品質はどんどん厳しく、不純物は0.1ミクロン単位で管理しています。

**海外展開はいかがですか。**

原料となる黄リンは全て輸入に頼っているため、収益は為替に大きく左右されます。対米ドルで1円変わると、純利益で1,000万円変動します。これまで販売先は国内がほとんどでしたが、為替リスクを減らす意味でも、海外へ販路拡大を図っています。現在、台湾、シンガポール、マレーシア、米国に輸出し、海外比率が10%にまで伸びてきました。将来的には50%を目指しています。

一方、台湾、中国など海外の安価なリン酸が国内に入ってきていますが、当社が手掛けるような高純度のリン酸はまだできず、日本企業の得意とするところです。

**－データを元に市場開拓－**

**今後の新しい事業展開は。**

当社は高機能性、高純度の化合物を得意としており、この特性を生かした事業展開を考えています。昨年外部のデータバンクを利

用して、開発部が市場調査を進めています。新聞・雑誌の情報、研究機関の文献などから、リンの新たな可能性を見つけ出し、事業化に向けた芽が生まれつつあります。

2013年には食添GMP認定制度に登録し、安心・安全・高品質な製品づくりを進めていると共に、製造受託や配合品の混酸にも力を入れ、拡販を図っています。

## 2年前に社長に着任され、どのような会社を目指しておられますか。

風通しのいい職場を心がけています。赴任してから職場懇談会を始めました。課単位での食事などの機会を設け、仕事はもちろん色々な話をしてコミュニケーションを図るもので、会社が費用負担します。懇談会や忘年会などには必ず参加しています。

他にも共済会や労働組合でボーリング大会や麻雀大会、サイクリングなど色々なレクリエーション活動があり、こうした行事にも積極的に参加しています。

## そのねらいは？

変化の激しい世の中です。開発案件の事業化や製造現場の改善を促すために、社内の誰にでも話しやすい雰囲気が大切だと考えています。当社の経営理念は「誠実と和」です。これまで幾多の困難を乗り越えてきたように、これからもみんなが真心をもって、協力していきたいと思っています。

## －安全意識で改善活動－

### 人材教育はどうされていますか。

化学会社ですので、危険物取扱者、公害防止管理者などの資格取得に力を入れています。受講料は会社負担で、合格者には報奨金を出すなどやる気を引き出すようにしています。また、他にも品質管理やリスクアセスメントに関する外部の講習会や経営者協会のセミナーなども積極的に受講させていますし通信教育を受ける人への受講料の補助もしています。

また、入社2～3年目の数名を東ソーの教育研修センターに派遣し、全国の東ソーグループの若手社員と一緒に、模擬プラントを動かす、製造現場での操作感覚の醸成やトラブルシューティングを通じたリスク感性の強化を図っています。参加した者は刺激を受けて帰ってきます。

そして、従業員全員が一人年間4件の改善提案を目標とし、優秀な提案には報奨金も出しています。常に問題意識を持つことで、安全に対する意識の向上にも繋がります。

### 具体的な安全対策を教えてください。

私は東ソー時代に長く製造現場にいましたので、安全の大切さは実感しています。原料の黄リンは空気に触れると燃え、赤リンも衝撃を与えると発火する危険物なの

で、何より仕事中は緊張感を継続することが大切です。事前にリスクアセスメントを徹底し、各作業の前には必ずチェックシートでリスクを確認した上で、仕事に取り掛かる仕組みになっています。

### 採用状況はいかがですか。

人材の確保については地元の学校や企業説明会を通じて行っていますが、この数年間辞めた人はいません。当社は福利厚生がしっかりしており、年間休日数は126日と、東ソーよりも多いくらいですし、有給休暇の取得率も7～8割です。以前から人を大切にする風土があります。今後、事業拡大を目指す上で、開発、技術系の人材を確保したいと思っています。

### 最後に座右の銘をお聞かせ下さい。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」。宮崎県の高鍋藩出身の上杉鷹山の言葉で、高鍋は私が小学校時代に過ごした町で、偶然ですが、2年間社長を務めた南九州化学工業(株)もある町です。

鷹山は、破産状態にあった米沢藩を強い意志で再建した人物です。もちろん頑張っても出来ないことはありますが、やらないことには可能性が生まれません。やる気の大切さを解いた言葉です。

## 略 歴

1957(昭和32)年、宮崎市生まれ。82年九州大学大学院合成化学修了後、東洋曹達工業(株)(現・東ソー(株))入社。2010年南九州化学工業(株)代表取締役社長、2012年東ソー(株)理事、2014年6月から燐化学工業(株)代表取締役社長に就任。



90周年記念パーティーで改善提案表彰授与(4月、軽井沢プリンスホテルで)

## 会社概要

### 燐化学工業株式会社

創 業：1926(大正15)年11月  
所 在 地：射水市新堀34番地  
資 本 金：1億2,000万円  
事業内容：リン酸、リン酸塩類、赤リン系難燃剤、金属表面処理剤、水処理剤等各種リン酸誘導品の製造及び販売  
従業員数：82名  
売上高：28億5,000万円(2015年度)  
事業所：東京支店  
U R L：http://www.rinka.jp/

# 事業活動報告

2016年10月12日～12月16日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
会 議	会長・副会長会議		11月11日(金)	ホテルグランミラージュ	3名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	11月16日(水)	富山経協・研修室B	7名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月24日(木)	富山経協・研修室B	7名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	12月7日(水)	富山経協・研修室B	11名
	環境委員会「定例委員会」	環境	12月7日(水)	富山経協・研修室A	13名
	教育委員会「定例委員会」	教育	12月8日(木)	富山経協・研修室A	20名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	12月9日(金)	富山経協・研修室A	16名
	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	12月12日(月)	富山電気ビル	13名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	12月16日(金)	富山経協・研修室A	21名
会 員 交 流	東部地区会員懇談会		11月11日(金)	ホテルグランミラージュ	102名
	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月17日(木)	地鉄ゴールデンボウル	120名
	第6回 婚活支援事業	総務交流	12月3日(土)	地鉄市内電車	14名
見 学 会	品質管理委員会「県外企業見学研修会」	品質管理	10月12日(水)～13日(木)	オムロン(株)草津工場、(株)島津製作所	16名
	IT・インフラ部会「会員企業見学会」	経営企画・IT	10月12日(水)	武内プレス工業(株)滑川本江工場	12名
	教育委員会「教育制度見学会」	教育	10月28日(金)	富山トヨタ自動車(株)	23名
	環境委員会「県内企業見学会」	環境	11月2日(水)	YKK(株)黒部事業所	23名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	若手社員活性化コース	教育	10月13日(木)	富山商工会議所ビル	49名
	管理職マネジメント研修	教育	10月14日(金) 11月15日(火) 12月15日(木)	富山県農業総合研修所	26名
	人事・労務管理セミナー<第2回>	人事・労務政策	10月18日(火)	富山経協・研修室A	19名
	事務間接部門の効果的な業務改善の進め方セミナー	教育	10月19日(水)	富山商工会議所ビル	35名
	労務管理実務講座	人事・労務政策	10月12日・19日・26日(水) 11月11日・18日(金)	富山経協・研修室A	22名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月20日・27日(木) 11月10日・24日(木)	富山経協・研修室A	26名
	コスト改善力実践セミナー	教育	11月2日(水)	富山商工会議所ビル	34名
	ISO9001:2015年版対応内部監査員養成講座	品質管理	11月8日(火)・9日(水)	富山商工会議所ビル	56名
	管理職基礎コース	教育	11月10日(木)・11日(金)	富山県農業総合研修所	39名
	労働法実務講座(第3回)	人事・労務政策	11月16日(水)	富山商工会議所ビル	42名
	女性社員のための改善力向上セミナー		11月17日(木)	富山県農業総合研修所	26名
	「5S+目で見える管理活動」実践セミナー	教育	12月7日(水)	富山商工会議所ビル	46名

## 総務交流委員会

### ■ 定例委員会

12月12日(月)、武内委員長はじめ委員13名が出席して富山電気ビルにおいて開催し、2016年度事業実施状況報告と2017年度事業計画(案)について審議を行った。

事務局より、2016年度事業について、定例委員会、調査活動、会員交流事業の実施状況を、評価と反省を含めて報告した。

2017年度計画については、①

「年度事業活動のご案内」を総務交流委員会にて審査承認し、会員企業へ情報提供する。②定期調査、経営課題調査の継続実施。③会員交流事業の継続実施。④役員・委員企業見学会の開催。審議の中で指示事項として、各種調査はタイムリーな情報提供に努めること。婚活支援事業は、継続することが重要であり、参加者のアンケート結果を参考として次回開催につな



げること等が要望された。2017年度の事業計画は、指示事項を踏まえることとして承認された。

### ■ 会員交流ボウリング大会

11月17日(木)、富山地铁ゴールデンボウルにおいて開催した。平日の夕刻時間にもかかわらず、30チーム120名の参加者を迎えることができた。

燐化学工業(株)代表取締役社長大塚肇氏による始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。

1フレーム毎に左右のレーンで交互に投球する「アメリカン方式」を採用したため、隣のレーンのチームとの交流が深まり、スト<上位成績>

ライクやスペアの際のハイタッチが随所に見られ、大きな歓声がホールに響き渡った。

ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と、一人ひとりの2ゲーム合計スコアで競う個人の部で行われたが、女性と男女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンディを適用した。

主な成績は下記の通り。団体の部はディフェンディングチャンピオンの武内プレス工業(株)チームが優勝して2連覇を達成。個人の部は武内プレス工業(株)遠藤雅博さんが優勝して団体の部と併せて2冠

を達成。表彰式では、自社参加チームの応援に駆けつけた総務交流委員会副委員長の北日本放送(株)取締役社長室長の島谷浩司氏がプレゼンターを務めた。



団体優勝の武内プレス工業チーム

(団体の部)	会社名	合計スコア	(個人の部)	氏名	合計スコア
優勝	武内プレス工業(株)	1,288	優勝	遠藤 雅博 (武内プレス工業)	374
準優勝	(株)チューエツ	1,197	準優勝	高野 裕也 (福井銀行富山支店)	361
3位	北陸電気工業(株)	1,043	3位	栗原 一男 (富山電気ビルディング)	359

### ■ 第6回婚活支援事業

12月3日(土)、富山地铁市内電車のレトロ車両を貸し切って、第6回目の婚活支援事業「レトロ電車で楽しむティーパーティー」を、男性7名、女性7名、合計14名の参加を得て開催した。

富山駅の市電発着場で受付を済ませた参加者は、次々と電車に乗

り込み、15時に出発。富山駅→富山大学前→南富山駅→富山駅の順で約1時間40分間の富山市内市電の旅が始まった。レトロ電車の中では、スペインバル有名店の特別スイーツBOXを片手に、全員が交流できる約8分間ずつの席替えタイムを設けて、参加者同士の素敵な出会いを演出した。レトロ電

車の座席に並んで座り、隣同士の会話も親密度が高まっていた。

最後にアプローチカードでカップリングをした結果、2組のカップルが成立した。カップルにならなかった方々も降車の際には声を掛け合っている様子も見られたので、今後の交流にも期待できるようだった。

### 人事・労務政策委員会

#### ■幹事会

11月24日(木)、笠井委員長はじめ幹事7名が出席し、富山経協・研修室Bで開催した。

笠井委員長の挨拶後、事務局より2016年度事業の経過報告を行い、今後の事業予定として2月開催予定の定例委員会では、インターンシップや採用、入社後の教育等に関して県内大学等の担当者と情報

交換会を行うこと、2017年度事業計画(案)として、「働き方改革推進への取り組み」をテーマに各定例委員会においては外部講師を招いての講演、情報交換会等を実施すること、人事・労務セミナーについては委員会参加企業へ実施したアンケート結果を参考に「女性活躍のための管理職セミナー」「自社賃金水準検証と人件費分



析」を実施することを12月定例委員会に諮ることを決定した。

#### ■定例委員会

12月9日(金)、笠井委員長はじめ16名が出席して、富山経協・研修室Aで開催した。

はじめに、(株)パソナ パソナ・富山の渡邊伸支店長が「多様な人材供給システムの概要について」と題して講演し、県内の労働情勢や働き方の多様化に関する最近の傾向、パソナグループの取り組みを解説した。

その後、事務局より2016年度事

業活動を報告。今後の予定として、2月定例委員会は、大学等とインターンシップ、採用、入社後の教育について意見交換を行う、労使交渉セミナーは2月3日、労働法実務講座は2月22日に開催することを確認した。続いて2017年度事業計画(案)について、「働き方改革推進への取り組み」をテーマに定例委員会内で情報交換・勉強会を開催する、講座については委員へのアンケートを参考に作成し



た事務局案に沿って開催する、研究部会については労働法関連法制研究部会、メンタルヘルス部会の活動を継続することが、審議のう え承認された。

### 教育委員会

#### ■定例委員会

12月8日(木)、松原委員長、重光副委員長はじめ20名が出席し、富山経協・研修室Aで開催した。

松原委員長の挨拶の後、2016年度活動報告として、①定例委員会は2月にアクティブ・ラーニングについての勉強会・意見交換会を行う予定であること、②教育制度見学会は2回開催し、6月16日に北陸コカ・コーラプロダクツ(株)で17名、10月28日に富山トヨタ自動車(株)で22名の参加を頂いたこと、③研究部会活動は北陸電力(株)沼田部会長より、今年度テーマ「富山県経営者協会の階層別研修の研究」についての中間報告を行った。

また、④講座・セミナー事業は、階層別研修は7講座実施し、募集定員を上回ったが、職能別研修は10講座実施し、一部に定員を下回るものもあった。

次に、2017年度の事業活動計画案として、①定例委員会は5月、8月、12月、2月の4回開催とし、5月は教育制度見学会と合わせて開催とする。2月は研究部会発表を行う。②教育制度見学会は5月、10月の2回開催とし、委員から見学希望先を募り訪問する。③研究部会活動は2016年度から継続して「富山県経営者協会の階層別研修の研究」をテーマに多くの会員企業が参加でき、満足できる階層別



研修の構築を考える。④講座・セミナーは受講者及び委員企業へ実施したアンケート内容等を踏まえ、「新入社員フォローアップ研修」を新設し、さらに、一部講座については開催時期の見直しや講義内容の変更を行った。審議の結果、2017年度事業計画は事務局案で進めることが決まった。



## 品質管理委員会

### ■ 幹事会

11月16日(水)、谷川委員長はじめ幹事7名が出席して、富山経協・研修室Bで開催した。

谷川委員長挨拶の後、2016年度年間事業報告を行った。次に、2017年度の事業計画について審議を行い、委員会活動については、幹事会を4月・11月、定例委員会

を7月・9月・12月・2月、県外企業見学研修会を10月に開催を計画すること、2017年度講座・セミナーについては、教育委員会の「IE手法による生産現場の改善セミナー」と「5Sと目で見る管理実践セミナー」を主催すること、「ものづくり女性社員の改善力向上セミナー」を新たに開催する事



事務局案で、12月の定例委員会に諮ることが承認された。

### ■ 定例委員会

12月16日(金)、谷川委員長はじめ委員21名が出席して富山経協・研修室Aにおいて開催した。

谷川委員長挨拶の後、2016年度の事業活動報告と2017年度の事業計画について審議を行った。

2016年度は前年度に引き続き、

定例委員会でのグループディスカッション、委員企業見学会の実施や講座の担当委員制実施等に取り組んだ。また、講座・セミナーでは、開講した10講座について募集人員を上回る講座も多く、順調に推移していることが報告された。

2017年度の委員会活動について

は、基本的には2016年度を引き継いで進めていくこととする。講座・セミナーについては、事務局案で承認された。

最後に4班に分かれ、「現状の品質管理・品質保証における困りごと」をテーマに、活発なグループディスカッションを行った。

## 環境委員会

### ■ 定例委員会

12月7日(水)、矢野委員長はじめ委員13名が出席して、富山経協・研修室Aにおいて開催した。

矢野委員長挨拶の後、2016年度事業活動報告と2017年度事業計画案について審議した。

来年度の企業見学先については、北電の志賀原発と神岡鉱山が候補

先となった。

県生活環境文化政策課の九澤主幹が「富山物質循環フレームワークを踏まえた食品ロス・食品廃棄物に関する取組み」と「北東アジア自治体環境専門家会合とやま宣言に基づく、温暖化対策に関する取組み」と題し講演を行った後、全国の自治体に取り組んでい



る30・10運動による食品ロス対策の意見交換を行った。

## 経営企画・IT委員会

### ■ 定例委員会

12月7日(水)、牧野委員長はじめ委員11名が出席して富山経協・会議室Bにおいて開催し、2016年度事業実績、2017年度委員会方針等について審議を行った。

牧野委員長より、急激に進む人口減少・労働力不足に、国、地域、企業が連携して取り組んでいく必要があり、当委員会としても色々な視点で議論していきたいとの挨拶があった。引き続き事務局より2016年度の事業実績および「人材の職場定着アンケート」の結果について報告後、2017年度の協会テーマが「人材の職場定着」に決まったことを受け、委員会として①テーマに沿って総会・地区懇談会の講演会の企画を行う、行政等の支援策の情報提供を行う、②現場力の向上につながるものづくり現場監督者研修の企画を進めること

などを説明し、審議の上事務局案で進めることを決定した。次回委員会は2017年4月6日に開催する。



などを説明し、審議の上事務局案で進めることを決定した。次回委員会は2017年4月6日に開催する。

階層別教育

■若手社員活性化コース

10月13日(木)、明日を背負って立つ元気な若手社員の育成を目指して、2016年度新入社員及び入社後2～3年の若手社員を対象に、49名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

(公財)日本生産性本部 経営コンサルタントの筒井健太講師から、①企業の存在意義とお客さま第一、

②上手な仕事の進め方、③チームワーク、④リーダーシップを発揮するビジネスパーソンのあり方について学んだ。また、グループ演習では日常事例を用いて参加者同士で意見交換と発表を行い、PDCAサイクルによる問題解決の技法の習得から、自ら課題形成し自律的に仕事を進めることができる自律型社員となることや、チーム



メンバーとしての心構えについて学んだ。



参加者NOTES

「若手社員活性化コース」を受講して

立山黒部貫光株式会社  
運輸課 黒部平運輸区

野原 悠介



私は今年、社会人3年目を迎えます。仕事は慣れてきましたが、任される仕事も多くなり、また後輩たちも出来て、期待や先輩というプレッシャーを感じるようになりました。次のステップへ上がろうという気持ちではあるのですが、仕事のスピードが落ちて催促されることが増えたり、また先輩として後輩へこんな指導の仕方で大丈夫かなどと、自分に自信が持てずモチベーションが下がり、スランプ気味になっていたところでした。そんなところにこの講義の話のいただき傾聴いたしました。

講義の前半では、「PDCA」という仕事の進め方のサイクルを学びました。仕事を進める上では、まず「Plan」計画、次に「Do」実施、続いて「Check」点検、最後に「Act」改善というサイクルが大切であると知りました。私は、今まで仕事においては段取りが一番重要だと思っていました。つまり「Plan」は重要視していましたが「Check」と「Act」についてはあまり意識しておらず、そこまでサイクルを回せていなかったと

思います。筒井先生のお話を聞いて「Check」、「Act」の2つの重要性に気づきました。計画を立てて実施し、結果を評価分析し、工夫や改善を対策とし、処置をとることが仕事を上手に進めることなのだ学びました。私はこの「PDCA」サイクルを繰り返しながら自ら課題形成をし、自律的に仕事を進めることができる自律型の人材を目指してこの先仕事に取り組んでいきます。

また、後半のチームワークとリーダーシップ(主体性)については、グループで仕事の優先順位を決める演習を行いました。グループで意見を出し合い、それをまとめてグループごとに発表をしました。演習の結果から改善値と改善率を求め考察を行い、効果的な組織活動を発揮するために必要な条件がどういったことだったのかを認識することができました。私はこの演習から、自分の仕事の役割を認識して問題に積極的に意見を出し合っていくことがチームワークを発揮する重要な事だと実感できました。

続いてのリーダーシップの話で筒井先生は、「特定の管理者(リーダー)だけにリーダーシップがあるのではない。誰にでもリーダーシップを発揮できる場面がある」と仰いました。そしてリーダーシップとは目標達成のために周りに影響を与える働きかけであると。私はリーダーシップは上司が下位者に対して主導することだと思っていました。ですが、これからは自分からリーダーシップを発揮すべく周りに広く働きかけを行い、影響力を及ぼしていきたいと思います。影響力がある人物は信頼できる。それがリーダーシップのパワーだということも学びました。

講義の最後に筒井先生はこれからの時代を担うビジネスパーソンである皆様をお願いしたいとこう仰いました。「なれる最高の自分になる！一人前は当たり前。一流を目指せ！」。私は、この言葉が講義の中で一番印象に残っています。

今の自分は、職場について3年目です。社会人として、ビジネスパーソンとして一つの区切りの時期にいると思います。この言葉を転機に、「なれる最高の自分・一流」を目指し努力し続けていきます。

## ■管理職基礎コース

11月10(木)・11日(金)、39名が参加して、富山県農業総合研修所で開催した。

講師の中間弘和（公財）日本生産性本部主席経営コンサルタントが、①管理者の役割と要件、②業績向上のマネジメント、③部下育成のマネジメント、④組織力強化

のマネジメント、⑤変革と推進のリーダーシップについて、具体的な事例や自身の体験談を交えて解説し、グループディスカッションでは活発な議論が行われた。特に部下の育成については、目標管理や人事考課の目的と仕組みを確認するとともに、ケーススタディを用いて部下指導のあり方や部下との



コミュニケーションを検討した。



### 参加者NOTES

#### 「管理職基礎コース」を受講して

株式会社ホンダ自販タナカ  
営業部 営業マネージャー

水上 勉



管理職基礎コースの研修に参加をさせて頂きました。管理職の仕事自身、諸先輩方の見よう見まねでやっていた部分もあり今回、管理職の基礎が学べる研修でもあり大変楽しみにしておりました。

研修内容は、管理職の役割として『業績向上』、『部下育成』、『組織力強化』のマネジメントについて中間先生の講義があり、先生自身が他企業でコンサルティングをされた時の好事例紹介や体験談などを伺いました。

研修が始まってからは県内企業、異業種で集まった7つのグループに分かれ、項目ごとにグループディスカッションが行われました。私の所属したグループでは、営業

職、事務職、技術職と、管理の仕事といえど内容もまちまちで、抱えている問題を共有し、メンバー全員で討議の課題解決に取り組みました。

『業績向上』についてのディスカッションでは、マインドとして『出来ないと考えないこと』、『やり始めたらあきらめない』、『小さなことの積み重ね』や『歴史にあぐらをかかない』などを考え、営業の目的とは『売ること』、『お客様を増やすこと』、『業績を上げること』、その目的の達成のため手段を考え、方法を作る。計画の実行のためには、単に課題を割り与えるだけではなく、育成を視野に入れた取り組みが必

要になるなど、グループディスカッションを通じて情報交換や他社の優れた事例や悩みなども伺うこともでき、現場で早速活用できるヒントなども頂きました。

研修全体を振り返って、管理職は組織全体の目的を正しく理解しブレイクダウンを行い、現場を動かすこと、部下を育て能力を最大限に発揮させること、現場で起きる問題の解決など、取り組みは多岐に渡ります。今回の研修で管理職の使命と求められる要件を深く理解出来ました。自分自身が目指すリーダー像を明確に捉え、リーダーシップを発揮し、人と組織を上手く動かせるようになりたいと思います。

今回は中間先生の貴重な講義を学ばせて頂き、異業種の方々と色々なお話も出来、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

## 共 通

### ■「事務・間接(スタッフ)部門の 効果的な業務改善の進め方」 セミナー

10月19日(水)、35名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の渡辺季幸（一社）中部産業連盟主任コンサルタントは、事務、間接（スタッフ）部門の業務改善を進めるためには製造現場との違いを知り、仕事の量とスピー

ドをコントロールすることがポイントであるとした上で、ものづくりの改善手法を応用することで事務・間接業務の効率化・仕事の質の向上を図れるとし、業務プロセス改善の着眼点や適用しやすい改善手法、タイムマネジメント、V Mの基本的な考え方について具体的な事例を交えて解説した。さらに、グループ演習で改善の効果的



な進め方を検討し、参加者間の活発な意見交換を通して理解を深めた。

## ■コスト改善力実践セミナー

11月2日(水)、製造、資材・外注、生産管理部門の方々を対象に「ムダの見える化と理想原価の追求」と題して、34名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の小川正樹(株)MEマネジメントサービス代表取締役は、原価計算の基本的な考え方とコストダウンのポイントを紹介した。コス

トダウン実践活動について、①購入・外注価格低減による材料費のダウン、②歩留管理・不良低減による材料費ダウン、③工数・設備効率向上による労務費ダウン、④ばらつき低減による製造経費ダウンの4つの切り口から、具体的事例を用いながら解説するとともに、参加者は演習問題を通して、コスト改善の進め方について理解を深



めた。

## ■ISO9001：2015年版対応 内部監査員養成講座

11月8(火)・9日(水)、56名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものである。県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、2004年以降、ISO9001内部監査員養成講

座を毎年開催してきた。

講師には(株)テックスISOコンサルタントの小紙浩氏を迎え、1日目はISO9001規格のポイント、要求事項の解説、2015年度改訂概要及びグループワーク、2日目はグループを1つの内部監査チームとし、チェックリストの作成と内部監査の実技演習を行った。受講者は講義と実技演習などを通じ、マネジメントシステムの有効性を監査することの重要性を認識していた。



### 参加者NOTES

#### 「ISO9001内部監査員養成講座」を受講して

三協立山(株)三協アルミ社  
福岡工場 品質管理課

萬谷 沙弥佳



私は、10月に現業部門の加工課からISOの事務局も担当する品質管理課に異動しました。

入社以来これまでずっと生産現場に従事していたこともあり、会社としてISOに取り組んでいることは知っていましたが、ISOの目的や規格あるいは用語など細かな部分については、全く理解していませんでした。

しかし、今回の異動により上司からの勧めもあり、まずはISOに

携わる中で必要な基礎知識を身につけることが出来ればと思い受講させて頂くことになりました。

2日間の講義では、今回改訂された2015年度版での変更点に関し、事例を踏まえ丁寧に分かり易く解説して頂いたことで素人の私でも理解することができました。

また、2日目に行ったグループディスカッションでは、架空会社の資料を題材としたロールプレイにより、どの様な問題とその原因

が推測されるか？ 品質マネジメントシステムの要求事項においては、どの項目に該当するかに至るまでを内部監査での質問内容として組み立てることで『ISO9001』の重要性と奥深さを感じる事が出来ました。

そして内部監査員としてはまだまだひよこレベルの私ですが、今回の『内部監査員養成講座』で学んだことを自信に変え、来年4月に予定されている次回の内部監査でデビュー出来る様、更なるスキルアップを目指したいと思います。

最後になりましたが、講師の小紙先生をはじめ、同じグループで学ばせて頂いた皆様に感謝したいと思います。

## ■ 女性社員のための

### 改善力向上セミナー

11月17日(木)、ものづくり企業で働く女性社員26名が参加して、富山県農業総合研修所で開催した。本講座は企業環境の変化を受け、ものづくりの現場においてもますます女性社員の活躍が求められていることから本年度初めて開講した。

講師の高林るみ子(株)日本能率協会コンサルティング TPMコンサルタントから、女性社員の活躍に必要な環境づくり・現場活性化の「仕掛け」や「仕組み」として、①改善活動概論、②生産活動の基礎知識、③5S活動の進め方、④改善活動の基礎知識について学んだ。また、グループ演習では不具合や改善の見える化の役割を担う、



自主保全活動には欠かせない「エフ付け」について、実際の現場写真に付箋を貼って体験し学んだ。



## 参加者NOTES

### 「女性社員のための改善力向上セミナー」 を受講して

ダイト株式会社  
包装製造部 包装課

宮崎 郁美



今回、女性社員のための改善力向上セミナーに参加する機会を頂き、富山県内各企業の26名の女性とともに参加しました。

初めに隣の席の方と、お互いに自己紹介しコミュニケーションをとることから始まりましたので、緊張がほぐれとても興味深く集中して受講することができました。

演習では、コミュニケーション向上の為の伝達ゲームとして、イラストに基づき説明する側とイラストを見ずに説明を受ける側の2人1組に分かれ、イラストを見ない人へイラスト内容を的確に伝えるゲームを行いました。口頭のみでイラスト内容を的確に伝

える難しさを感じました。一方で、早く伝わった人達のポイントを聞いて、「伝え方」や「受け方」に気を配ることで、伝えたい情報や真実が伝わり易くなる事もわかりました。

日頃からコミュニケーション力を高めることを心がけ、仲間への尊重や協調する気持ちをより一層持っていきたいと思いました。

初めは、改善について考えるのはとても難しいと考えていましたが、重要なのは「人」であり、職場のメンバー同士が自由に意見を言い合える環境であれば意識しなくても、各自が自発的に改善を考えるようになることを聞き、私も、

一人一人の頑張りを言葉に表して声をかけ、メンバー同士が自由に言い合える環境作りを心掛けていこうと思いました。

講師の先生が受講生の悩みを聞く機会もあり、その悩みについて皆で話し合い、同じような職種の受講生から、自分の会社ではこうして解決したという話もたくさん聞くことができ、とても有意義な機会となりました。

今回のセミナーで改善について多くの知識や情報を学ぶ事ができ、また自分になかった考え方を知る機会にもなりました。皆、会社は異なりますが似たような悩みもち改善しようと努力していることがわかり、毎日の忙しい日々をただ過ごすのではなく、職場をより良い環境に改善していけるように、私ももっとコミュニケーションをとり努力していきたいと思えます。

## ■ 「5S+目で見る管理活動」 実践セミナー

12月7日(水)、46名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の中井芳美(一社)中部産業連盟上席主任コンサルタントは、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)は、ただ単に職場をきれいにするというのではなく、よい品質を作り出し、ムダをなくす職場

の基本であり、品質・納期・コスト・安全・環境・士気のすべてに効果が期待できるとした上で、目で見る管理とは「現場の状態が正常か異常か目で見てすぐ分かり、必要な手がすぐに打てる状態にすること」であるとし、現場での実践事例の紹介やグループ演習での意見交換を通じて管理の進め方について理解を深めた。



労務管理

■人事・労務管理セミナー(第2回)

10月18日(火)、「時代の変化に対応した賃金制度」をテーマに、19名が参加して富山経協・研修室Aで開催した。

(公財)日本生産性本部の大場正彦主席経営コンサルタントは、労働力人口の減少をはじめとする企業を取り巻く環境変化を踏まえたうえで、企業競争力の究極的な源泉は「人材」であるとし、経営課題の中でも人材マネジメントの

重要性が高まっていると指摘した。これからの人事制度・賃金制度設定においては、従業員が自身の能力を向上し発揮する動機付けを長期にわたり与えられ、自身の努力の成果が正当に承認され実感できる制度であることが必要であるとし、賃金水準・賃金配分(賃金体系)・賃金の支払形態(給与構造)の検討ポイントについて事例を交え解説した。



■労働法実務講座(第3回)

11月16日(水)、「時間外労働・休日労働をめぐる諸問題と労働監査への対応」をテーマに42名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士から、労働時間に関する基礎知識、時間外・休日労働と割増賃金支払義務、時間外・休日労働の管理、時間外・休日労働と適用除外、労働監査への対応について解説を受けた。

講義においては具体的ケースや判例の解説を交えながら近年問題

となっている労働時間の管理について、割増賃金の計算と固定残業代(定額払)の有効性のポイントや、休日の振替・代休の留意点、いわゆる「名ばかり管理職」問題などに関する法的ポイントが解説され、受講者からは大変関心の高いテーマに対し実践に役立つ内容でわかりやすかったとの声が聞かれた。

また、最新の事例として「定年後再雇用者が定年前と同じ業務内容にもかかわらず賃下げを行われたことは適法となるか」が審議されている「長澤運輸事件」につい



て、平成28年11月2日東京高裁判決(定年後再雇用の嘱託者について労働契約法20条違反を認めた原判決を取消した例)の情報提供を受けた。

■労務管理実務講座

11月18日(金)、全5回で富山経協・研修室Aにて開催した労務管理実務講座は22名の参加者全員が修了した。

第1回では、作井法律事務所の小股清香弁護士が企業経営の中で労働法についてその役割を解説し、事務局より就業規則の重要性について解説した。第2回、3回

では、島崎裕美子社会保険労務士が労災・雇用保険実務および社会保険実務にかかる諸問題とその解決策について、第4回、5回では小股清香弁護士が労務管理上のトラブル未然防止、労働紛争への対応についてそれぞれ解説を行った。

各回とも事例や判例を交えた講義となり、受講者は個別の質問票も活用しながら労務管理の実務に



かかわる諸問題について学んだ。

## 品質管理

### 実践しながら学ぶ

#### 統計的手法活用講座

5月26日(木)から富山経協・研修室において開講した「第60回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月24日(木)に14日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理(SQC)の手法を学び、自職場での問題の解決を図るべく、その実践的な活用方法を習得することをねらいとしている。上司とキャッチボールのうえ職場の身近な問題をテーマに選定し、グループ別にカウンセリングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することを修了基準の一

つとしている。

最終日の24日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、受講者26名が修了証を手にした。また、講座全体を通して総合評価上位の3名が優秀賞を受けた。



#### 〈優秀論文〉

竹林 卓弥さん (中越合金鋳工(株))  
加門 雄歩さん (コーセル(株))  
戸田 寛規さん (アイシン軽金属(株))

#### 〈優秀賞〉

稲垣 和倫さん (コーセル(株))  
荒瀧 茂允さん (コーセル(株))  
酒井 康行さん (YKK(株))

#### 〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属(株)  
コーセル(株)  
サンエツ運輸(株)  
タカギセイコー  
中越合金鋳工(株)  
富山化学工業(株)



### 参加者NOTES

#### 「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」 を受講して

コーセル株式会社  
ユニット生産部 生産技術課

稲垣 和倫



私は直流安定化電源を製造、販売しているコーセル株式会社でユニット生産部生産技術課に所属しており、製造ラインで使用する生産設備の開発や生産技術教育ツールの構築に携わっています。

弊社では入社して約1年間、統計的手法を社内講座で学ぶ機会があり、当時は統計的手法をどのように活かすことができるかわからないまま受講していましたが、実際にQCサークルで統計的手法を使う機会が増え非常に便利なものであることを認識しました。しかし、実業務で様々な課題で使用する

機会が増えていく中、QCストーリーの考え方や統計手法の活用には色々なパターンがあり、更に理解度を深め、思考の幅を広げる必要があると感じ、再度基本的な部分から勉強することができる良い機会であると思い本講座を受講しました。

本講義では品質管理の歴史やQCストーリーの基本的な考え方を学べ、その後、管理図法、検定・推定、分散分析、回帰分析などの専門的知識についても講義スケジュールがしっかり分けられており、各内容について基礎から学ぶこと

ができました。不明確な部分については、講師の方に分かりやすく教えていただくことができ、とてもよい講座であったと思います。

講座期間中に作成する研究論文では、講義で学んだ統計的手法を業務の問題・課題解決にすぐに活かすことができ、より理解を深めることができました。研究内容はグループディスカッションにて講師の方と他の受講者の方に様々な視点から意見・アドバイスをいただくことができ、よい活動を達成できました。また、他の受講者の方の事例を聞くことで知識の幅が広がったと思います。

今後はこの講座で学んだ統計的手法を正しく使用し、業務に活かすことでよりよい生産設備の開発を行っていきたいと思います。

## 教育委員会

### ■教育制度見学会

10月28日(金)、松原委員長はじめ23名が参加して、富山トヨタ自動車(株)TBI研修センターで開催した。

品川副委員長より富山トヨタ自動車(株)の会社概要や事業内容の説明を頂いた後、TBI研修センターを見学した。同センターは営業スタッフや国家資格が必要な自動

車整備士の技術スキルの向上を図る人財育成拠点として昨年移転新築された。見学後、同社の教育制度について、経営に対する考え方や人財育成に対する考え方、具体的な取り組みの説明をいただき、質疑応答及び意見交換を活発に行った。最後に、日本の工業技術の高さや、ものづくりの大切さを伝えるシンボルである、全社員でレ



ストアした初代クラウンを見学し、散会した。

## 品質管理委員会

### ■県外企業見学研修会

10月12日(水)～13日(木)の2日間の日程で、16名が参加した。

初日は、高機能な各種産業用コントローラなど超多品種少量生産約4,000品目を生産しているオムロン(株)草津工場を訪問、プリント基板実装工程、セル生産ラインによる組立工程を見学した。同工場で

は生産ビックデータを活用した見える化システムを重要視し、生産性・品質・設備保全に役立てている。「人と機械のベストマッチング」する生産ラインの構築を理想とし、生産ラインは美しくなければならぬということ、生産の流れ、変化の異常、今後の戦略が見えるようなライン作りが行われ



ており、統一感のある非常に綺麗な

### 参加者NOTES

#### 「県外企業見学研修会」に参加して

となみの工業株式会社  
管理部 生産技術グループ 係長 笠原 広大



私は自動車部品製造の生産技術部門に所属しています。多品種少量生産になりつつある中、各社様でどのようなライン作りがされているか、また不良品を出さないためにどのような品質向上活動をされているのかという点を見学させていただき、少しでも取り入れることがあればと思い参加しました。

「オムロン草津工場」様では月度の生産の90%以上が20台以下の多品種少量生産でした。常に生産状況を把握し、可能であればライン2つを1つにまとめ、かつU字セルライン生産をうまく活用して、段取り回数、時間を減らし、変化

に対応できるライン作りがされていました。決まれば即実行をモットーにされていました。また生産の流れや変化、異常、今後の戦略が現場で「見える化」されており、作業員の技能試験も毎月実施されており、いい意味での緊張感を保ちつつ、品質維持活動が進められておられました。

「島津製作所」様は見えぬものを見えるように、測れないものを測れるように、分析、計測器の研究、製造をされている会社でした。クオリティセンターという施設を見学させていただき、製品の設計前と製造前に、分析、測定、

評価をし、品質向上に常に高い研究意識をもっておられると感じました。他社には真似できないモノを具現化するため研究開発に徹底的に力を注ぎ、自社の強みを最大限に生かせる職場環境になっていました。

今回の研修会で感じたことは、各社様とも部門間の連携がスムーズで常に同じ課題に同じ方向を向いて取り組まれていたことです。また品質を維持するための活動が明確で、変化に柔軟に対応できる仕組みになっていました。「見える化」することで作業者の生産に対する意識が高まり、品質向上にも繋がります。それらを踏まえて自社に取り組みそうな工夫が多くあったので、今後の社内活動に生かしていけたらと思います。



なレイアウトとなっていた。独自のオートメーション技術を生かした働きやすさを実感した。

2日目は、精密機器、計測器、医療機器、航空機器の開発・製造を行っている(株)島津製作所を訪問した。分析計測機器の社会での活用紹介をしている「サイエンスプ

ラザ」、医療用機器ショールームの「メディカルセンター」、より安全、快適な製品を届けるための品質向上の拠点として2013年に開設した「クオリティセンター」を見学した。「人と地球の健康」への願いを実現するという経営理念のもと、社会とともに成長し、さらな

る品質向上に向けて、社会の一員として努力している姿に感動した。

参加者は2日間の行程を通して、品質管理先進企業を実際に目で見て体感することができた。また、参加者間での情報交換も活発に行われ、非常に有意義な見学研修会であった。

## 環境委員会

### ■ 県内企業見学会

11月2日(水)、矢野委員長以下23名が参加して、YKK(株)黒部事業所で開催した。

矢野委員長の開催挨拶に続き、YKK(株)の井上副社長より会社概要、環境への取り組み等の説明を

頂き、パッシブタウンのモデルハウス、センターパークの丸屋根展示館、ふるさとの森、地下水熱利用空調を見学し、丸屋根カフェにて環境への取り組みについて質疑応答や意見交換を活発に行った。



## 経営企画・IT委員会

### ■ IT・インフラ部会

#### 会員企業見学会

10月12日(水)、寺崎部会長はじめ12名が参加して武内プレス工業(株)滑川本江工場で開催した。

工場見学に先立ち、寺崎部会長より武内プレス工業(株)の会社案内や製品紹介、国内にある事業所や海外子会社であるタイのアルコン・パブリック・カンパニー、P

OP(生産時点情報管理)システムによる管理について説明を受けた。その後、2班に分かれて第3工場棟において、エアゾール缶およびアルミチューブの製造現場と実際に稼動しているPOPシステムなど、高い基準を満たす製品づくりの工夫や在庫を増やすことなく必要数を生産している過程を見学した。工場見学後、参加者から



の質疑応答と意見交換を行った。

## 新会員の紹介

### ■ 学校法人 荒井学園

所在地 高岡市石瀬281-1  
代表者 理事長 荒井 公浩  
設立 1962年(昭和37年)4月  
資本金 —  
従業員 85名  
事業内容 学校教育(高等学校運営)



### ■ 株式会社 ナチ富山ベアリング

所在地 富山市高内171  
代表者 代表取締役 尾定 均  
設立 1960年(昭和35年)  
資本金 4,600万円  
従業員 129名  
事業内容 軸受製造業



(50音順)

### ■ 天龍工業株式会社

所在地 富山市婦中町道場1番地3  
代表者 代表取締役社長 吉川 徳雄  
設立 2009年(平成21年)10月  
資本金 9,500万円  
従業員 140名  
事業内容 輸送用機械器具製造業



## 会員の動き

### ■ 所在地変更

日本カーバイド工業株式会社  
滑川市大島530番地



表紙の花  
クロガネモチの実

(富山県中央植物園 中田政司)

### 金持ちの木

クロガネモチ（黒鉄騎）の名前は、樹皮から烏糞（とりもち）を採るモチノキに似ていて、若い枝や葉柄が紫色を帯びることに由来するとされています。しかし、鉄色（くろがねいろ）というのは暗い青緑色のことなので、深緑色の葉に由来すると考えることもできます。

この「クロガネモチ」という名前は、語呂合わせで「苦勞（の後）金持ち（になる）」あるいは「苦勞（がなく）金持ち（になる）」と読めるため、縁起木として記念樹に利用されることがあります。

樹木としては、常緑の高木でよく茂って樹形が整い、冬に赤い実をたくさん着けることから、庭木、公園木、街路樹としても人気があります。

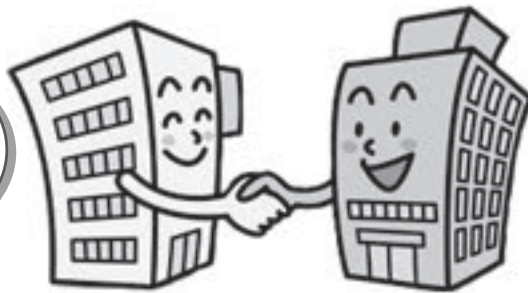
### 雌雄異株でも結実

本来の分布域は日本海側では福井県、太平洋側では茨城県より西の地域で、富山には自生していません。しかし、富山の冬は雪のせいで乾燥することがないため、各地で栽培されています。

この仲間は雌雄異株で、雄の木を植えると実が着きませんが、雌の木は1本だけでも結実します。クロガネモチは多量の実を着けるため、ヒヨドリなどが群れて採餌に訪れることがあります。鳥たちは果実を丸飲みにしますが、種子は消化されずに糞とともに排出されるので、落し物からいろいろな木の芽生えが生じます。そのうち富山県でも、鳥が種子を運んで野生化したクロガネモチが見られるかもしれません。

## 企業間の人材マッチングを支援しています。

人材が不足しており、  
補充を検討  
されるとき



人員に余剰感があり、  
雇用調整を検討  
されるとき

まっ先にご相談ください。



since 1987

企業間の出向・移籍の専門機関

公益財団法人

## 産業雇用安定センター

富山  
事務所

〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F  
ご利用時間/9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

TEL 076-442-6900

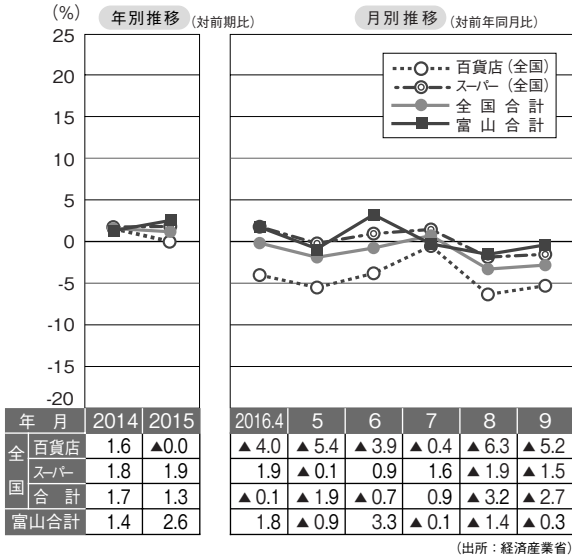
FAX 076-439-2860

全国ネットの人材情報  
最新の情報を日々更新しています

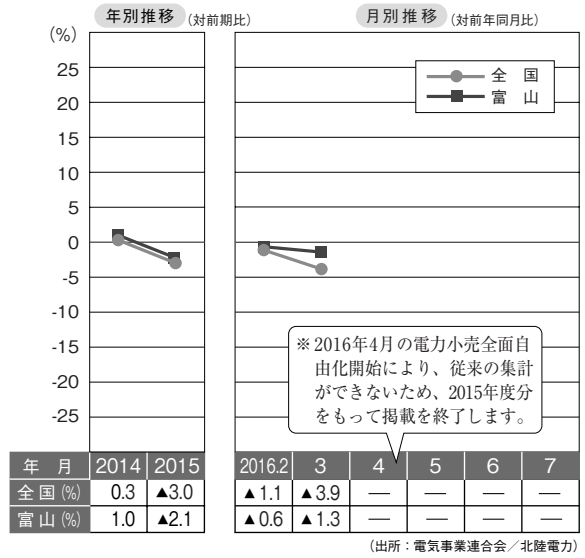
<http://www.sangyokoyo.or.jp/>

# 景況指標

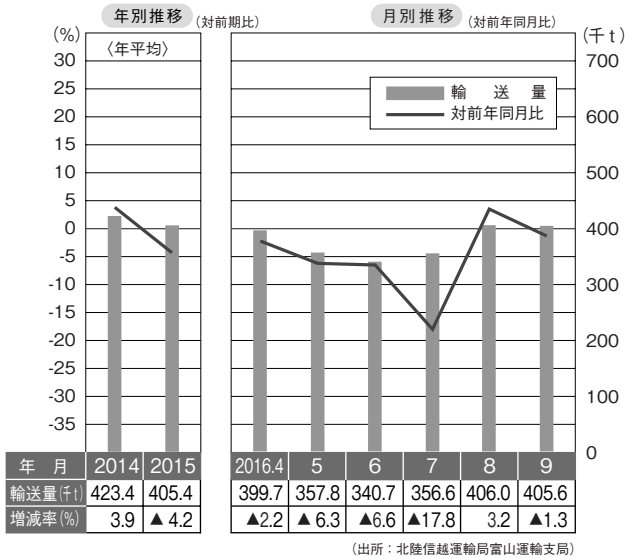
## ■百貨店・主要スーパーの売上高



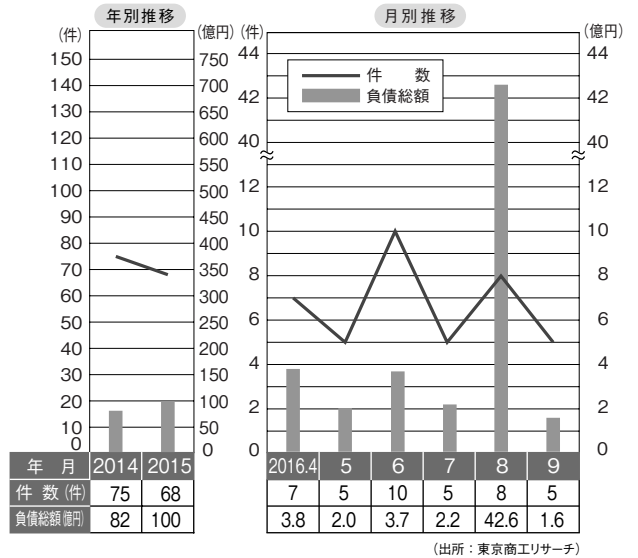
## ■大口電力消費量(製造業計)



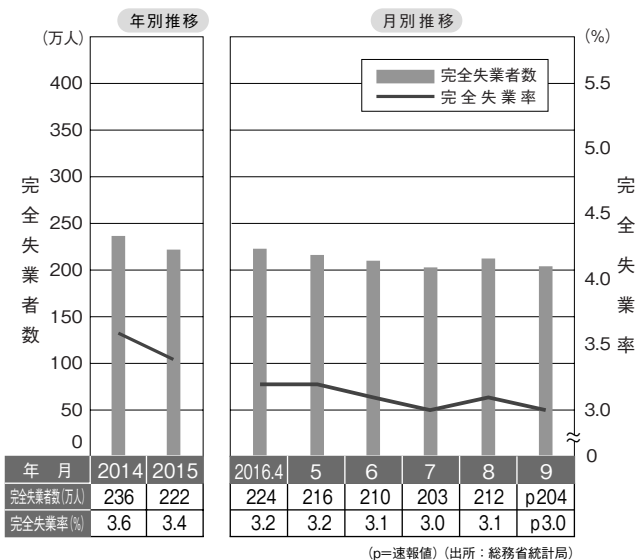
## ■一般貨物自動車輸送量(富山県内)



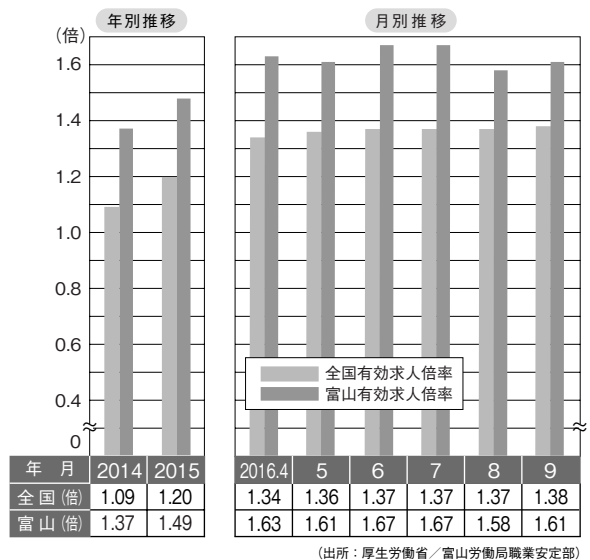
## ■企業倒産(富山県内)(件数と負債総額)



## ■完全失業者数及び完全失業率(季節調整値)



## ■有効求人倍率(パートを含む季節調整値)



# 新春互礼会

ご案内済み

日時：2017年1月4日(水) 16:00～17:30

場所：ANAクラウンプラザホテル富山  
3階「鳳の間」

富山市大手町2-3 TEL.076-495-1111

県内経済5団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会
- ・富山県商工会議所連合会
- ・富山県商工会連合会
- ・富山経済同友会
- ・富山県中小企業団体中央会

# 幹事会

■日時

2017年3月3日(金) 16:00～

■場所

富山電気ビル 5階「中ホール」

富山市桜橋通り3-1 TEL.076-432-4111

<内容>

- 2016年度事業報告
- 2016年度収支見通し
- 2017年度暫定予算

(別途ご案内申し上げます)

## 事業予定

2016年12月19日～2017年2月28日

詳しくはホームページ(<http://www.toyama-keikyo.jp/>)  
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会員交流	1月4日(水)	16:00～17:30	新春互礼会		ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳の間」	上記「お知らせ」参照
講座・セミナー	1月17日(火) 2月17～18日(金～土)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教育	富山県農業総合研修所	
	1月19日・26日(木) 2月9日・16日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座<応用編>	品質管理	富山経協・研修室A	
	1月24日(火)	9:30～16:30	CS(顧客満足)基礎セミナー	教育	富山経協・研修室A	
	2月3日(金)	13:30～15:30	2017年労使交渉セミナー	人事・労務政策	富山経協・研修室A	
	2月14・15日(火・水)	9:30～16:30	第2回係長・主任実践コース	教育	富山県市町村会館	
	2月22日(水)	13:30～16:00	労働法実務講座(第4回)	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	

「富山経協」vol.829

2016年(平成28年)12月号  
2016年12月19日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)  
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>  
Eメール [info@toyama-keikyo.jp](mailto:info@toyama-keikyo.jp)